



公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 平成30年7月豪雨 被災者支援活動報告

みなさまのあたたかいご支援、ありがとうございました。

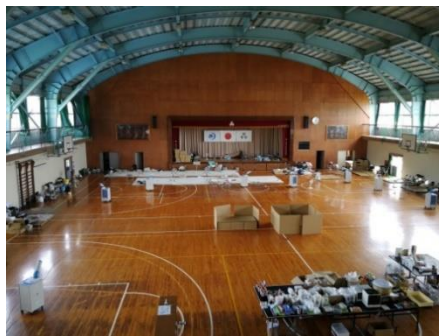
「緊急だからこそ、地域の支え合いが心の拠り所に」

西日本を中心に全国的に広い範囲での記録的大雨

2018年7月、西日本を中心に全国的に広範囲に渡って、台風7号および梅雨前線による集中豪雨が発生しました。特に広島県・岡山県・愛媛県の3県に被害が集中し大きな被害がでました。活動の拠点とした愛媛県西予市野村町では、街を流れる肱川が氾濫し、床上浸水570戸・床下浸水80戸の被害がありました。



被災した家屋
(2018年7月 西予市内)



発災直後の避難所。
まだ仕切り等整備されていない。
(2018年7月 西予市内)



段ボールの仕切りができた。
ここに約100世帯が暮らしていた。
(2018年7月末 西予市内)

初動調査を開始

シャンティでは発災後7月12日より、2チームに分かれて広島県と岡山県、そして愛媛県に職員を派遣しました。

その中でも活動する団体が少なく支援が手薄だったこと、被災した地域に協力団体(四国地区曹洞宗青年会)がいたことなどから、愛媛県西予市で被災者への支援活動を開始しました。地域を熟知し、何より地域住民との信頼関係のある協力団体と国内外での被災地支援の経験を有する当会が連携することで、より迅速に支援活動を実施することができました。

地域協力団体との連携 四国地区曹洞宗青年会

四国管内に在住している満46歳未満の青年僧で構成。
夏休みには、福島の子どもの保養プログラム「こども自然ふれあい広場」を実施するなど様々な活動を展開しています。

URL <http://www.sousei-shikoku.org/>



◆支援活動1◆ 物資配布

1つ目の支援活動は被災地域での物資配布。避難所では、発災後1週間が経過しても消毒用ハンドジェルや体を拭うボディシートやウェットティッシュ、綿棒、爪切りなどの衛生用品や、暑さを緩和する熱さまシート等も行き渡らず、行政による救援物資配布に遅れや抜けが見受けられました。

対象地域の避難所を巡回して聞き取りを行い、細かなニーズに対応した物資の調達、配布を行いました。特に女性や高齢者を対象とした衛生用品(ナプキン、パンティライナー、尿漏れライナー等)、下着類、コスメ用品(化粧水、クレンジングシート、ヘアブラシ等)、一部清掃用品等は、見えにくいニーズであるため、とても喜ばれました。



協力団体のみなさん(青年会・婦人会)と一緒に配布しました(2018年7月)



避難所での物資配布の様子(2018年7月)

【物資配布 実績】

* 対象地域…西予市5カ所・大洲市1カ所、延べ6カ所の避難所

* 数量、分量…一カ所平均下記参照

ウェットティッシュ×20袋、ボディシート×20袋、ハンドジェル6個、熱さまシート×20箱、化粧水10個、クレンジングシート10袋、雑巾10袋 等

◆支援活動2◆ 路上カフェ

2つ目の活動は、在宅避難者や地域の現状を把握するためのヒアリングを目的とした路上カフェ活動を行いました。

在宅避難者のニーズが見えにくい状態にあったため、被害を受けた町内、家屋や店舗の清掃活動を行っている個所を歩きながら、熱中症対策の飲み物、かき氷、飴類等の配布を行い、地域の方たちとの会話を通して状況の把握、課題を見つけました。

提供対象には被災者のみならず、清掃活動に参加するボランティアも含まれました。発災当時は夏休みであり、地域の学生が積極的に清掃活動に参加している様子も印象的でした。



各家庭にかき氷を配る様子
(2018年7月)

【路上カフェの実績】 2018年7月末

* 対象地域…西予市野村町1カ所(2日に渡って実施)

* 対象者…在宅避難者、ボランティア(支援者)

* 1日平均50名利用。例年より気温が高かき氷は好評であった。

◆支援活動3◆ 傾聴サロン活動～避難所での集いの場づくり～

3つ目の活動は「傾聴サロン活動」。お茶会を避難所で実施しました。町内の避難所が集約され約100名が生活する避難所において、日中引きこもりがちな高齢の方々を中心として、飲み物を提供しながら、話し相手になったり、読書・娯楽等も提供できる傾聴型カフェ、「ほっとサロン」を開設。ふらっとお茶を飲みにくる住民の話じっくり聞き、心のケアの一助となりました。

この活動も、地元の協力団体でもある四国地区曹洞宗青年会の青年僧侶の方々や、地域で何かしたいとつながった読み聞かせのグループのみなさんと一緒に、避難所閉鎖の9月17日まで週3日のペースで実施しました。お坊さんだからこそ話せる悩みや、また同じ避難所で過ごす住民同士で集う場としても、連日大盛況でした。



避難所での傾聴サロン活動
(2018年7月～)

【避難所サロン活動の実績】 2018年7月～9月(計25回)

*対象地域…西予市野村町(野村小学校避難所)、*1日平均20名利用

◆支援活動4◆ 子どもの保養プログラム

「被災地域の子どもの保養プログラム」として、日帰りバスツアーを企画、実施しました。

発災直後、西予市野村町では1学期を繰り上げ、早めの夏休みになりました。保護者は瓦礫撤去等の生活再建で忙しく「今年は子ども達を遊びにも行かすことができない」という保護者の声、同時に子ども達からも「今年はあんまり外行くなって言われる」という声を多く聞きました。

そこでこれまで一緒に活動をしてきた四国地区曹洞宗青年会と、同じ避難所で子ども向けの支援活動を行っていた他団体(プラン・インターナショナル・ジャパン)の三団体共催で、四国で有名な遊園地、「レオマワールド」に日帰りで行くツアーを実施しました。



【子どもの保養プログラムの実績】 2018年8月23日(木)

*ツアー先…レオマワールド(香川県丸亀市綾歌町栗熊西40-1)

*参加者…123名(子ども、保護者、スタッフ含む)

◆支援活動5◆ 仮設住宅集会所・談話室の環境整備

仮設住宅では住民同士のコミュニケーションをより円滑にする場として、集会所や談話室が設置されました。生活する住民同士で協力しながら場づくりをする必要があるため、シャンティでは、避難所閉鎖後の居場所の一つとして捉え、集会所や談話室を住民が利活用できるように、必要不可欠な最低限の備品の提供を行いました。

座布団やパイプイスなどの備品を納品する準備で協力団体のお寺の一部をお借りました。

【仮設住宅集会所備品整備の実績】 2018年8月末～10月
*対象地域…愛媛県内計4カ所(西予市2カ所・大洲市2カ所)の
仮設住宅集会所、談話室
*納品物…机、いす、座布団、テレビ、ポット、湯呑、急須など
冷蔵庫、掃除機、座椅子(大洲市のみ)



◆支援活動6◆ 傾聴サロン活動～仮設住宅集会所・談話室での場づくり～

避難所で実施していた「傾聴サロン」の活動は、避難所を出た後も場所を変えて引き続き実施しています。協力団体である四国地区曹洞宗青年会が中心となり、現在は、愛媛県西予市と大洲市の仮設住宅集会所や談話室計4カ所に加え、大洲市では発災前からある既存のサロンにもお邪魔し、住民のみなさんが心にため込んでいる気持ちをお話していただき、少しでも気持ちが晴れるようにと、お茶の提供と共に実施しています。

また傾聴の活動だけでなく、サロンの中で住民のみなさんがやってみたいと思うアイデアも募り、住民のみなさんと一緒に企画・実施することもあります。西予市野村町の仮設住宅では、これまでに芋炊きや餅つき大会、お花見会などを実施しました。野村町では2019年1月より仮設住宅の自治会が発足したこともあり、住民のみなさん自身でサロンやイベント等の活動をしていけるようサポートしています。



小学校からもボランティアにきました



仮設住宅での傾聴サロン活動



芋炊き準備の様子



お花見会の様子

【傾聴サロン活動の実績】 2018年9月末～現在(週1回実施、2019年4月以降は月1回実施)
*対象地域…西予市、大洲市(2018年11月21日～)、その他都度相談にて実施
*1回平均15～20名利用(地域により差がある)

◆支援活動7◆ 蔵書支援

今回の災害で大きな被害を受けた宇和島市吉田町。その地域にある唯一の中学校、宇和島市立吉田中学校の図書室の蔵書支援を行いました。2018年に創立50周年を迎える中学校は、元々生徒が900名いたことから、蔵書数は約1万4000冊ありました。学校教育の一つに「読書のすすめ」があり、毎朝読書の時間を設けるなど、積極的に読書推進に取り組む学校でした。シャンティではこれまでアジアの子ども達への教育支援の一つとして「絵本を届ける運動」や図書館の建設等を行っており、東日本大震災の支援でも移動図書館活動を行うなど、図書関係のつながりがあったことから今回の蔵書支援を決めました。

学校の隣に流れる川が氾濫したことで、図書室をはじめ、体育館、理科室、保健室、教室、校長室等が全て浸水し、また学校の2階も地域の避難所となりました。地域のために夏休みの間一生懸命にボランティアした子ども達に、少しでも笑顔が広がることを願い実施した蔵書支援となりました。図書室自体の工事に時間はかかりましたが、3学期から図書室の再開が叶い、図書室にまた生徒さんたちの姿が見られるようになりました。

【支援した蔵書数】

*794冊 *蔵書管理ソフト一式



被災した図書室の様子(2018年7月)



贈呈式の様子(2018年12月)

◆支援活動8◆ 被災地間交流プログラム

シャンティ独自の活動として、被災地間交流プログラムを実施しました。

1つは小学生を対象にした交流プログラム。四国地区曹洞宗青年会が主催となり、南相馬と愛媛県内の子どもたちが参加しました。普段近くで見ることのないイルカと泳ぐなどの保養に加え、地域の暮らしの体験を通し大災害について学びました。

もう1つは中高生を対象とした交流プログラムを2回*実施しました。愛媛と宮城と福島の学生達が、復興にむけて挑戦する大人の声を聴くことなど町づくりについて学びました。また、お互いの地域について発表したり語り合う時間を設け、新たなつながりの中でそれぞれの視野を広げる活動になりました。

*1回目は2019年8月7日～11日に宮城県気仙沼市において実施。

2回目は2020年2月22～24日に愛媛県和宇島市及び西予市において実施。



イルカと泳ぐ前の説明
(2019年7月)



気仙沼での活動を聞く様子
(2019年8月)



それぞれの地域について発表する様子
(2020年2月)

平成 30 年 7 月豪雨支援募金 決算報告書

シャンティでは職員を派遣後、現地に常駐しての活動は 2018 年 9 月末で終了しました。

以降は、協力団体であった四国地区曹洞宗青年会が中心となり、愛媛県西予市や大洲市内で活動を継続しています。シャンティは後方支援として、月に数回活動地を訪れ、傾聴サロンにお邪魔したり、活動に必要な情報提供、関係団体との連携、資金提供、モニタリング等を行ってきました。

あわせて、被災地間交流プログラム(◆支援活動8◆)の実施に向け、調整を進めました。参加した中高生や各地域で学生と関わっている団体、そしてシャンティにとっても学びの多いプログラムになりました。

被災地は現在、家の解体作業が続いており、至るところで更地が目立ちます。訪れるたびに変わる現地の風景をみて、復興を感じる人もいるかもしれませんが。しかし更地となった土地に新しい家を建てる人もいれば、別の場所に家を建てる人、まだ考えがまとまらない人など、住民のみなさんの気持ちは揺れ動いています。心の復興は、一人ひとりペースが違います。シャンティの平成 30 年 7 月豪雨支援は一旦の区切りをつけますが、これからもその時々が必要とされる活動を、現地の協力団体と連携しながら考えていきます。

【収益】

2018 年 7 月 12 日～2020 年 3 月 30 日

収益	項目	金額(円)
	個人・関係団体・企業等からの支援金	22,066,841

【費用】

	項目	金額(円)
直接 事業費	①物資配布、②路上カフェ、③⑥集いの場づくり	735,568
	④子どもの保養プログラム	400,000
	⑤仮設住宅集会所・談話室の環境整備	1,477,568
	⑦宇和島市立吉田中学校への蔵書支援	2,325,138
	⑧被災地間交流プログラム	3,329,762
	⑨職員(派遣者、緊急救援事業担当)人件費、旅費等	9,960,042
		直接事業費総計
	管理費(直接事業費×20%)	3,645,616
	費用総額	21,873,694

平成 30 年 7 月豪雨支援寄付金 残高 193,147 円

残金は今後の支援に活用させていただきます。